

始業式講話

今年度、杉並工業高校 校長となりました高野です。前任の高校長先生から引き継ぐことになりました。よろしく願います。

新年度のスタートに当たって校長として皆さんにメッセージを送らせてもらいます。

二千二十年度は、最高学年となる三年生、そして学校の中心となる二年生、全ての皆さんにとって大切な一年となります。特に三年生は今後の人生を左右するとても重要な年であり、一日一日が充実したものとなるよう心掛けなければいけません。

しかし、今、社会全体がコロナウイルスの影響により様々な制限を余儀なくされるなど、予期せぬことが起きています。新学期が始まりましたが、通常の授業も部活動も当分できそうにありません。

このような状況下で、皆さんに二つのことをお話します。

一つは、世界中がそして日本全体が緊急事態であることを全員が理解し、それを踏まえた行動をとるようにしてください。学校の休校措置をはじめ様々な対応、そして密集、密閉、密接を避ける一人一人の行動制限は、我々の健康を守ることに第一の目的です。それとともに、家族や友人、お年寄りや基礎疾患をお持ちの方など、弱い立場の命を救うことにつながるということも考え行動してください。たとえ症状が出ていなくても、感染者であるかもしれないという認識を持って行動すべきだと思います。

二つ目は、新学期を迎え、新たな決意をもって頑張ろうとする気持ちを大切に、日々の生活を充実させてください。

しかし、現在のような制限が加わる状況下では、生活を充実させることも、決意を新たに持つことも難しいことかもしれません。それでも、皆さんには、学校に行って勉強もできない、部活もできない、このピンチな状況の裏側にはどんな

チャンスがあるのか、制限だらけのこの時は自分に何を教えようとしているのか、まずはじっくりと考えてほしいと思います。

人によっては、学校に行かないことをいいことに、ゲームや遊びに明け暮れたりする人もいるかもしれません。これでは、ピンチがさらに広がりかねません。皆さんには、行動に制限が加えられるこの期をチャンスととらえ、自らの進路を実現させるための勉強を計画的に行ったり、部活動が再開した時のために、自分の弱点を徹底的に個人練習で克服したり、また、家族の一員として家の仕事を率先して行ったりして欲しいと思います。

ピンチの裏側にはチャンスがある。

思い通りにいかない時や苦しい時には必ず意味がある。

災い転じて福となす。

三年生はすぐに、二年生も一年後には、具体的な進路活動が始まります。進路決定する時に、「あなたは、この世界的な危機状況の中で、何を考え、どう行動したか」間接的に直接的に問われることになると思います。面接試験等で問われた時、この時、自分は何を考えたのか、しっかりと自分のことを語る事ができるようになって欲しいと思っています。

ピンチをチャンスと捉え日々の生活を充実させ、自らの成長を目指してください。

心落ち着かない日々が続きます。それでも、必ず陽は昇ります。学校が再開されたその時、皆さんに会えることを楽しみにしています。

令和二年四月八日